

第3136回
例会本日の
プログラム歴史の中の音楽～お話とピアノ演奏～
ピアニスト 渡部麻千子 先生

ガバナー公式訪問 RI第2510地区ガバナー 玉井清治 氏

皆さま、本日はお招きいただきありがとうございます。
札幌東ロータリークラブの皆さまに向けて、私の思いをお伝えできることを大変光栄に思います。

まず、クラブへの評価と期待について申し上げます。先程行われた会長幹事懇談会やクラブ協議会を通じ、札幌東ロータリークラブがロータリーの原点に立ち返り、危機感を持って将来像に向き合っている姿勢を拝見しました。特に梅澤会長の力強いリーダーシップのもと、会員増強に向けクラブが一体となって取り組む姿勢は、他のクラブの模範となるものです。

次に、RI会長エレクトに関する出来事について触れます。今年度の会長に就任予定であったマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏が、就任直前に辞任を表明した件で、皆さまにもご心配をおかけしました。健康上の理由ではなく、今後も一ロータリアンとして活動続ける意向が示されています。マリオ氏はかつてパキスタンの大洪水の際、被災者の多様な事情に合わせた住宅建設を主導しました。その人間性と行動力は、まさにロータリーの精神そのものであります。そして後任のフランチェスコ・アレツツォ新会長は、マリオ氏の方針を100%継承し、「よいことのために手を取りあおう」というテーマを引き続き掲げておりますので、皆さまどうか安心して活動を続けていただきたいと思います。

本年度の地区テーマは「リバイバル原点回帰」です。ロータリーは1905年、信頼できる仲間との商取引から始まりました。この精神を忘れずに活動することが大切です。国際ロータリーが直面している最大の課題は会員減少です。クラブの活性化こそが、会員増強に結びつきます。先人の築いた歴史を振り返りながら、時代に即したクラブ運営を見直す必要があります。

たとえば、国歌斉唱や「4つのテスト」の意味を改めて学び直すことで、新たな気づきが得られます。また、現在のクラブ運営が果たして最適なのかを問い直し、会員が楽しみ、誇りを持てるクラブづくりを模索することが求められています。

さらに、地区内ネットワークを強化するため、新たな試みを始めました。Googleマップを活用し、ロータリアンの事業所や連絡先を可視化する仕組みです。互いのサービスを利用しやすくするための仕組みであり、値引きではなく、知識や経験といった付加価値を共有する文化を目指しています。

次に、地区大会の改革についてご紹介します。従来の大会は、途中退席が多く、主催者や講演者への礼を欠く場面が見られました。私はそれを問題視するのではなく、最後

まで楽しめる大会を作ることこそ主催者の責任であると考えました。そのため、学びの部分は各クラブに委ね、大会は「親睦と楽しさ」に特化することにしました。

具体的には、初日は午後からスタートし、遠方の方が参加しやすいようにしました。翌日は昼過ぎには全プログラムを終了し、持ち帰り用の弁当を用意して速やかに帰路につける工夫をしています。講演にはジャーナリストの須田慎一郎氏を招き、日本経済や未解決事件の裏話など、エンターテインメント性のある内容を準備しています。懇親会は「星空の大懇親会」と名付け、従来の晚餐会を刷新しました。参加費を引き下げ、昭和のアイドル石野真子さんのトーク&ライブ、津軽三味線の演奏などを取り入れ、まさに楽しさを最優先に設計しています。変化には批判もありますが、任期の1年間で信念を貫きたいと考えています。

また、オンラインの活用も進めます。大会に来られない方にはライブ配信を行い、須田氏の講演や石野真子さんのライブも視聴いただけます。さらに、会場外スタジオからサブチャンネルを設け、ガバナー補佐の悩みや会長の思いを自由に語る場を発信してまいります。

最後に、会員増強以上に大切なこととして「退会防止」を申し上げます。そのためには、会員を支えるご家族の理解と協力が欠かせません。会員が活動を続けたいと思える背景には、家族の支えがあります。ご家族にロータリーの楽しさを共有していただくことが、クラブの力強さに直結します。札幌東ロータリークラブの皆さまにおかれましても、既に家族を大切にする文化が根付いていると拝見しました。その点を心より高く評価いたします。

どうか本年度、「リバイバル 原点回帰」を胸に、ロータリーの原点を再確認しながら、未来に向けて共に歩んで参りましょう。



■本日のロータリーソング

それでこそロータリー

2025-2026年度

国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長:フランチェスコ・アレツツォ

よいことの
ために
手を取りあおう